令和3年度 第10回定例農業委員会総会議事録

1. 招集の別 農業委員会等に関する法律27条第1項による
2. 日 時 令和4年1月11日 午後1時30分
3. 場 所 ろくじ館 研修室
4. 議 題 議案第31号 農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定による決定
について（諮問）
議案第32号 耕作放棄の農地が農地法第2条第1項の「農地」に該当する
か否かの判断について
議案第33号 熊本地震に伴う地籍再調査事業実施区域（大字田口地区の一
部）の農地の地目変更について（照会）
議案第34号 農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想の変更に
ついて（諮問）

5. その他

6. 出席委員

農業委員

1 番 山内 亮一	2 番 長野 和代	3 番 中村 幸信
4 番 松本 茂	5 番 平井 豪	6 番 奥名 政成
7 番 清住 昇	8 番 佐藤 礼治	9 番 福永 浩紀
10 番 岡本 篤幸	11 番 五嶋 靖	12 番 中村 峯子
13 番 島津 和徳	14 番 本田 廣正	

農地利用最適化推進委員

西村 孝生	井上 良治	田上 安幸
河嶋 隆雄	本田 忠文	志垣 保博
伊佐 浩二	坂本 秀孝	坂本 導成
緒方 寛二	上村 敦之	

7. 欠席委員

8. 議事録署名人

1 番 山内 亮一

2 番 長野 和代

9. 本会議に職務のため出席したものの職氏名

事務局長 井上 幸介

事務局職員 古田 昭憲、今村 優香、川端 勵志

会 議

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 議事録署名委員の指名
4. 議 事

事務局長 はい。それでは、皆様、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願
い
します。

それでは、定刻になりましたので、総会を始めます。まずは総会の成立要件を申し
上げます。本日の出席委員は13名です。甲佐町農業委員会会議規則第6条の規定を
満たしますので、総会は成立することを御報告いたします。それでは、ただいまか
ら令和3年度第10回定例農業委員会総会を始めさせていただきます。まず、会長に
御挨拶をお願いします。

会 長 会長挨拶

事務局長 はい。ありがとうございました。それでは、議事録署名委員の指名をお願いいたし
ます。

会 長 はい。本日はですね、1番委員の山内委員と、それから2番委員の長野和代委員に
お願いをいたします。

事務局長 はい。それでは議事に入りたいと思います。議事の進行につきましては、会議規則
第4条の規程に基づき、会長をお願いいたします。

会 長 はい。それでは会議を進めてまいります。議案第31号「農業経営基盤強化促進法第
18条第1項の規定による決定について」を議題といたします。事務局長から説明を
お願いします。

事務局長 はい。それでは1ページをお願いいたします。議案第31号「農業経営基盤強化促進
法第18条第1項の規定による決定について」農業経営基盤強化促進法第18条第1項
の規定による決定について、別紙のとおり諮問があったので、意見を求めるもので
ございます。令和4年1月11日提出、甲佐町農業委員会会長名です。次の2ページ
をお願いいたします。甲農第1479号、令和3年12月21日、甲佐町農業委員会会長岡
本篤幸様、甲佐町長奥名克美。農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定による
決定について（諮問）。農業経営基盤強化促進法第3条に基づく農用地利用集積計画
について、同法第18条第2項及び甲佐町農業経営基盤強化促進事業実施方針により、
農用地利用集積計画を定めたいので、同法第18条第1項の規定により諮問します。
3ページをお願いいたします。農用地利用集積計画総括表、令和3年度第10回です。

まずは、農用地利用集積計画の総括表で説明いたします。賃借権の再設定について、6年の田が4筆の5,006平米のみとなります。賃借権の新規について、3年の田が1筆の1,569平米、5年の田が6筆の8,443平米、5年の畑が5筆の4,291平米、6年の田が16筆の32,808平米、10年の田が29筆の25,961平米となります。使用貸借権の再設定についてはございません。使用貸借権の新規について、6年の畑が1筆の508平米のみとなります。このため、今回の利用権設定の合計は、田が56筆の73,787平米、畑が6筆の4,799平米となります。その他、所有権移転については、田が4筆の1,279平米となります。委員の皆様へ審議していただきますのは、新規の案件となります。詳細は、事務局から説明いたします。以上です。

会 長 はい。ありがとうございます。それでは4ページをお願いします。議案第31号「農業経営基盤強化促進法の規定による農地利用集積計画について」を審議します。番号1番について、事務局から説明をお願いします。

事務局 はい。説明します。

(申請人の状況・相手方の状況・申請土地の状況・移動の理由・契約の種類を読み上げ)

申請地の位置について、9ページに記載しておりますが、前のスクリーンで説明いたします。まず、こちらが国道443号線、こちらに桜の丘がございます。申請地は桜の丘から北に約340メートル、西寒野の山下に1筆あります。続きまして、相手方の状況について説明いたします。番号1番の相手方は認定農業者で、西寒野集落で農業を頑張っておられ、主に米、麦、飼料作物の作付をされています。今回の申請地には米の作付を計画されており、集積後は効率よく利用できると思われれます。以上で説明を終わります。

会 長 はい。ただいま、事務局から説明がありました。これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。それでは、質問もないようでございます。それでは、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

(賛成者挙手)

はい。全員賛成と認めます。番号1番については原案のとおり承認いたします。続きまして、番号2番と番号3番については相手方が同一なので、一緒に審議したいと思えます。この案件の相手方は6番委員の奥名委員です。農業委員会等に関する法律第31条、甲佐町農業委員会会議規則第11条に参与の制限に該当するため、審議が終わるまで退席をお願いします。

(奥名委員の退席確認後)

はい。それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局 はい。説明します。

(申請人の状況・相手方の状況・申請土地の状況・移動の理由・契約の種類を読み

上げ)

続きまして、申請地の位置について、10ページに記載しておりますが、前のスクリーンで説明いたします。まず、こちらが国道443号線です。こちらが町道中早川北早川線、こちらに西邦電気さんがございます。申請地は西邦電気さんから東に約315メートル、早川の向鶴に1筆、同じく早川の蓮町に4筆ございます。続きまして、相手方の状況について説明いたします。番号2番、3番の相手方は認定農業者で、糸田集落で農業を頑張っておられ、主に米、麦、大豆の作付をされています。今回の申請地には米、麦の作付を計画されており、集積後は効率よく利用できると思われまます。以上で説明を終わります。

会 長 はい。ただいま、事務局から説明がありました。これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。御意見ございませんか。はい。それでは、質問もないようでございます。それでは原案のとおり決定することに賛成の方は挙手願います。

(挙手の確認)

はい。全員賛成と認めます。番号2番、番号3番については、原案のとおり承認いたします。奥名委員の入室を認めます。

(奥名委員の入室確認後)

続きまして、番号4番について審議したいと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局 はい。説明します。

(申請人の状況・相手方の状況・申請土地の状況・移動の理由・契約の種類を読み上げ)

次に、申請地の位置について、11ページに記載しておりますが、前のスクリーンで説明いたします。まず、こちらが国道443号線、こちらが安津橋、こちらに緑川団地がございます。申請地は緑川団地から南に約280メートル、下横田の前田にございます。続きまして、相手方の状況について説明いたします。番号4番の相手方は認定農業者で、下横田集落の中心経営体として農業を頑張っておられ、主に酪農をされています。今回の申請地には米、WCSの作付を計画されており、集積後は効率よく利用できると思われまます。以上で説明を終わります。

会 長 はい。ただいま、事務局から説明がありました。これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。何か御意見ございませんか。質問もないようでございます。それでは原案のとおり決定することに賛成の方は挙手を願います。

(挙手の確認)

はい。全員賛成と認めます。番号4番については、原案のとおり承認をいたします。続きまして、番号5番について審議したいと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局 はい。説明します。

(申請人の状況・相手方の状況・申請土地の状況・移動の理由・契約の種類を
読み上げ)

続きまして、申請地の位置について、12ページに記載しておりますが、前のスクリーンで説明いたします。まず、こちらが国道443号線です。こちらが甲佐大橋になります。申請地は大字糸田字中川原に2筆と、早川字上小塚に1筆ございます。続きまして、相手方の状況について説明いたします。番号5番の相手方は認定農業者で、早川集落の中心経営体として農業を頑張っておられ、主に米、飼料用米、野菜の作付をされています。今回の申請地にも、米、飼料用米、野菜の作付を計画されており、集積後は効率よく利用できると思われます。以上で説明を終わります。

会 長 はい、ありがとうございます。ただいま、事務局から説明がありました。これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。何か御意見ございませんか。質問もないようでございます。それでは、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

(挙手の確認)

はい。全員賛成と認めます。番号5番については、原案のとおり承認いたします。続きまして、番号6番について審議したいと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局 はい。説明します。

(申請人の状況・相手方の状況・申請土地の状況・移動の理由・契約の種類を
読み上げ)

続きまして、申請地の位置について、13ページに記載しておりますが、前のスクリーンで説明いたします。まず、こちらが国道443号線です。こちらが甲佐町役場、こちらに甲佐小学校がございます。申請地は甲佐小学校から北東に約340メートル、豊内の塘ノ内に1筆あります。続きまして、相手方の状況について説明いたします。番号6番の相手方は下豊内集落の中心経営体として農業を頑張っておられ、主に米の作付をされています。今回の申請地にも米の作付を計画されており、集積後は効率よく利用できると思われます。以上で説明を終わります。

会 長 はい。ただいま、事務局から説明がありました。これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。はい。佐藤委員、どうぞ。

8 番 耕作面積が5,000に満たらないと思いますが、よかったですかね?

会 長 事務局、説明をお願いします。はい。

事務局 番号6番の相手方は人・農地プランに、担い手に位置付けられています。耕作面積は確かに5反要件は満たさないんですけども、担い手として位置付けられており、基盤強化法に基づいて問題ないと判断しました。一応、熊本県農業会議のほうにも

確認をとって、基盤強化法に基づく貸し借りを入れることについて問題ないというふうの確認をしております。以上で説明を終わります。

8 番 ということは、その5反未満でも可能になることがあるということで、今回はそれに当たるということですが、他にもなんかあつとですか。そういう条件に当たる。

会 長 はい。事務。

事務局 基本的にですね、やはり基盤強化法、その人・農地プランの、この名前を載せるということは、農地をだいたい持ってる人が載るんですけども、この方は今から増やそうということで、ということで下豊内集落のほうに載せられたということでありまして、やっぱそこは御了承いただきたいと思います。

事務局長 議長。

会 長 はい、局長どうぞ。

事務局長 基本的に農地法の3条というのは、必ず5反の要件は必ず。基盤強化法もそれに準じるんですけども、この基盤強化法の場合は農地法とまた違って、担い手になるだけ集めて耕作していこうというような法律の作り方になっているので、その人・農地プランの、その担い手、中心経営体としてそこに位置付けられてたらオッケーですよというのが法律上あるということなんです。農地法の3条のほうだと5反ないと絶対駄目だけれども、こっちの法律の場合だと人・農地プランの担い手に位置付けられてればオッケーですよというような法律の作りになっています。

8 番 理解はしますし、反対もしませんけども、ただほら、そういう意義からしますと年齢あたりはもうですね、ある程度高年齢になってきてますんで、その部分についてはやっぱある程度、ですたい、その説明のごたっかたちの年齢なり、意欲ある方についてはもうどんどん、そういう貸付けしたほうがいいとは思いますが、なんか、気になる点があったもんですから、別に反対はいたしませんので、はい。

会 長 説明でください、理屈はお分かりになったと思います。よろしいですか。

8 番 はい。

会 長 はい。ほかに何か御意見ございませんか。それでは、ほかにはないようございませう。それでは、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

(挙手の確認)

はい。全員賛成と認めます。番号6番については、原案のとおり承認をいたします。続きまして、5ページをお願いします。番号7番について審議したいと思います、この案件の相手方は、農地利用最適化推進委員の上村委員が代表を務める法人です。参与の制限に該当するため、審議が終わるまで退席をお願いします。

(上村委員の退席確認後)

はい。それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局

はい。説明します。

(申請人の状況・相手方の状況・申請土地の状況・移動の理由・契約の種類を読み上げ)

続きまして、申請地の位置について、14ページに記載しておりますが、前のスクリーンで説明いたします。まず、こちらが県道嘉島甲佐線です。こちらに日立物流さん、木村のあられさん、ネッツトヨタさんがあります。今回の申請地は、御覧のように白旗に10筆点在しています。続きまして、相手方の状況について説明いたします。番号7番の相手方は認定農業者で、山出集落で農業を頑張っておられ、主に米、麦、大豆の作付をされています。今回の申請地にも米、麦、大豆の作付を計画されており、集積後は効率よく利用できると思われれます。以上で説明を終わります。

会長

はい。ただいま、事務局から説明がありました。これより質疑に入ります。発言のある方は挙手を願います。何か御意見ございませんか。はい。それでは、質問もないようでございます。原案のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。(挙手の確認)

はい。ありがとうございました。全員賛成と認めます。番号7番について、原案のとおり承認をいたします。上村委員の入室を認めます。

(上村委員の入室確認後)

はい。続きまして、番号8番と番号9番は相手方が同一なので、一緒に審議したいと思えます。事務局から説明をお願いします。

事務局

はい。説明します。

(申請人の状況・相手方の状況・申請土地の状況・移動の理由・契約の種類を読み上げ)

続きまして、申請地の位置について、15ページに記載しておりますが、前のスクリーンで説明いたします。まず、こちらが県道嘉島甲佐線です。こちらに日立物流さん、木村のあられさん、ネッツトヨタさんがあります。今回の申請地は御覧のとおり白旗に7筆点在しております。続きまして、相手方の状況について説明いたします。番号8番と9番の相手方は認定農業者で、元白旗集落で農業を頑張っておられ、主に米、大豆の作付をされています。今回の申請地にも米、大豆の作付を計画されており、集積後は効率よく利用できると思われれます。以上で説明を終わります。

会長

はい。ただいま、事務局から番号8番と9番について説明がありました。これより質疑に入ります。発言のある方は挙手を願います。何か御意見ございませんか。はい。それでは、質問もないようでございます。それでは、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。(挙手の確認)

(挙手の確認)

はい。全員賛成と認めます。番号8番、番号9番については、原案のとおり承認い

たします。

続きまして、6ページをお願いいたします。番号10番について審議したいと思えます。この案件は、熊本県農業公社を通しての貸借です。それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局

はい。説明します。

(申請人の状況・相手方の状況・申請土地の状況・移動の理由・契約の種類を読み上げ)

続きまして、申請地の位置の説明をいたします。田について、16ページに地図を添付しておりますが、前のスクリーンで説明いたします。まず、こちらが県道嘉島甲佐線です。こちらに日立物流さん、こちらにネットトヨタさんがございます。申請地は吉田の吉田第一に2筆、同じく吉田の吉田第二に4筆点在しております。続きまして、畑については、17ページをお願いします。こちらが九州自動車、こちらに緑川パーキングエリアがございます。今回の申請地は緑川パーキングエリアから南に約200メートル、府領の中原に2筆ございます。次に相手方の状況について説明いたします。田を借りる相手方は認定農業者で、吉田集落で農業を頑張っておられ、主に米、麦、大豆の作付をされています。今回の申請地にも米、麦、大豆の作付を計画されており、集積後は効率よく利用できると思われます。次に畑を借り受ける相手方について説明します。相手方は御船町の認定農業者で、甲佐町でも広く耕作されています。主に米、野菜の作付を計画されており、今回の申請地には野菜の作付を計画されています。集積後は効率よく利用できると思われます。以上で説明を終わります。

会長

はい。ただいま、事務局から番号10番について説明がありました。これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。何か御意見ございませぬか。はい。質問もないようでございます。それでは、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

(挙手の確認)

はい。全員賛成と認めます。それでは、番号10番については原案のとおり承認いたします。

続きまして、番号11番と番号12番は相手方が同一なので、一緒に審議したいと思います。この案件も、熊本県農業公社を通しての貸借です。それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局

はい。説明します。

(申請人の状況・相手方の状況・申請土地の状況・移動の理由・契約の種類を読み上げ)

次に、申請地の位置の説明をいたします。こちらは九州自動車、こちらに緑川パー

キングエリアがございます。今回の申請地は緑川パーキングエリアから南に約350メートル、府領の南原に3筆ございます。続きまして、相手方の状況についても番号10番と同様ですので、説明を省略いたします。申請地には、野菜の作付を計画されており、集積後は効率よく利用できると思われま。以上で説明を終わります。

会長 はい。ただいま、事務局から番号11番、番号12番について説明がありました。これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。

14番 はい。

会長 はい、どうぞ。

14番 11番の方、これ認定農業者ですよね。前回もありましたけど。11番の方。

会長 事務局。

会長 ちょっと、暫時、休憩いたします。

(再開)

それでは、休憩前に引き続いてですね、会議を再開いたします。

はい。それでは、休憩前に引き続き会議を進めてまいります。ただいま、事務局から11番、番号12番について説明がありました。これより質疑に入りますが、発言のある方挙手願いますということで発言もいただきました。そのほかに何か御質問はございませんか。本田さんの質問については、今ちょっと話しましたので。

事務局 はい。

会長 それでは、ほかには質問もないようでございます。原案のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

(挙手の確認)

はい。全員賛成と認めます。番号11番、12番については、原案のとおり承認をいたします。

続きまして、番号13番から番号19番は相手方が同一なので、一緒に審議したいと思います。この案件も、熊本県農業公社を通しての貸借です。それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局 はい。説明します。

(申請人の状況・相手方の状況・申請土地の状況・移動の理由・契約の種類を読み上げ)

続きまして、申請地の位置の説明をいたします。18ページに地図を添付しておりますが、前のスクリーンで説明します。まず、こちらが国道443号線です。こちらに糸田集落がございます。申請地は大字糸田に全部で19筆点在しております。続きまして、相手方の状況について説明いたします。番号13番から19番の相手方は認定農業者で、糸田集落で農業を頑張っておられ、主に米、麦、大豆の作付をされています。今回の申請地にも米、麦、大豆の作付を計画されており、集積後は効率よく利用で

きると思われます。以上で説明を終わります。

会 長 はい。ただいま、事務局から番号13番から番号19番について説明がありました。これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。何か御質問ございませんか。質問もないようでございます。それでは、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

(挙手の確認)

はい。全員賛成と認めます。それでは、番号13番から番号19番については、原案のとおり承認をいたします。

続きまして、8ページをお願いします。番号20番について審議したいと思います。この案件は、農地中間管理機構を活用した農業経営基盤強化促進法に基づく農地の売買です。熊本県農業公社が所有者の方から農地を買い上げる案件です。それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局 はい。説明します。

(申請人の状況・相手方の状況・申請土地の状況・移動の理由・契約の種類を読み上げ)

続きまして、申請地の位置の説明をいたします。19ページに地図を添付しておりますが、前のスクリーンで説明します。まず、こちらが県道三本松甲佐線です。こちらに甲佐神社がございます。申請地は甲佐神社から西に約570メートルから720メートル、上揚の山下に4筆ございます。以上で説明を終わります。

会 長 はい。ただいま、事務局から番号20番について説明がありました。これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。はい。それでは、質問もないようです。それでは、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

(挙手の確認)

全員賛成と認めます。番号20番については原案のとおり承認をいたします。

はい。それでは、議案第32号「耕作放棄の農地が農地法第2条第1項の「農地」に該当するか否かについて」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

事務局長 はい。それでは、20ページをお願いします。議案第32号「耕作放棄の農地が農地法第2条第1項の「農地」に該当するか否かの判断について」農地法第2条第1項の規定に基づき、別紙の耕作放棄地が「農地」に該当するか否かについて、判断する必要が生じたため、意見の決定を求めるものでございます。令和4年1月11日提出、甲佐町農業委員会会長名です。以上です。

会 長 はい。ありがとうございました。それでは、今回議題として提案されている内容について、事務局から説明をお願いします。

事務局 はい。それでは、御説明申し上げます。21ページから26ページに非農地化候補地の一覧を載せております。今回、農業委員会が職権で非農地通知を行おうとする対象

の農地は、昨年度、上早川の野田、井尻、あと古閑の非農地の判定を御審議いただいたところですが、その続きといたしますか、その次に、また続いているところがございます。対象農地は上早川大字下野田、小俣及び鳴山の耕作放棄地になります。この内、上早川の字下野田の農地が88筆、面積は77,050平米、字小俣にある農地が21筆、面積は12,132平方メートル、字鳴山にある農地が25筆、面積は20,599平米で、3地区の合計筆数が134筆の109,781平米です。それでは、21ページから26ページにありますリストの説明を行いたいと思います。左から、通し番号ですね、そして、その次に大字、次が字、地番、地籍、地目、所有者氏名、農振の有無、非農地通知対象農地になるか否かの順になっております。以上です。

会 長 はい。続きまして、事務局から申請地の位置の説明をお願いします。

事務局 はい。地図につきましては27ページにお示しをしておりますが、前のスクリーンのほうで御説明申し上げたいと思います。左下に、こちらが大峯の集落がございます。上のほうに、こちらがメガソーラー、太陽光発電施設でございます。昨年の御審議いただいたところがこちらになりまして、そこに隣接している下野田、小俣、鳴山、この3地区でございます。場所の説明は以上でございます。

会 長 はい。それでは続きまして、現地の状況について、農地管理部会長の5番委員の平井委員から説明をお願いします。

5 番 はい。農地管理部会長を務めています5番委員の平井です。それでは、説明します。先月の12月23日に会長、島津委員、本田委員、事務局と一緒に現地調査を行いました。今回、提案されている農地・非農地の判断対象農地は、大字上早川字下野田、字小俣及び字鳴山にある農地134筆です。農地の状況としては、中山間地等に存在する農業公共投資の対象となっていない小集団の生産性の低い農地134筆で、現地を確認したところ、今回の耕作放棄となっている農地は、筆界未定の農地も多く、また、周囲を山林と隣接する農地であるため、管理が行き届かず、周囲の状況から見ても農地として復元しても継続して利用することが困難ではないかという判断に至ったことを報告いたします。

会 長 はい。ありがとうございました。ただいま、農地管理部会長で5番委員の平井委員から現地の状況の報告。また、耕作放棄となっている農地が農地法第2条第1項の「農地」に該当するか否かの判断について説明がありました。これより質疑に入ります。発言のある方は挙手願います。はい。佐藤委員、どうぞ。

8 番 先般もこの、先般もといたしますか、その所有者氏名がアグリプランニングという株式会社が多数見受けられますけども、先般も説明はあったと思いますけども、再度この会社についての説明をお願いしたいと思います。というのは、この名義が変更になったために放棄地になったという可能性もなきにしもあらずかなということもあり得ると思いますので、もう一度その会社のほうの、分かっている範囲内で結構

ですので説明のほう。

会 長 はい。事務局、どうぞ。

事務局 はい。アグリプランニングさんなんですが、アグリプランニングさんが取得される前から、もうこういう状態が続いております。数10年前に大峯地区のほうにゴルフ場開発の話があり、その開発会社が一応取得にまわられたんですが、その話が頓挫いたしまして、後任で、登記地目はそのままの購入であったため、一般企業ではなく、こういったアグリプランニングという会社を新たに作られて取得された。結局は農地として再生したいという、当初はお考えでこう、購入されてきたんですけども、残念ながらそういう再生の状況に至らず、今回またこういうことで非農地通知の状況になってきたということでございます。

会 長 佐藤委員、何か、よろしいですか。経緯について説明がありました。

8 番 はい。結構です。

会 長 ほかに何か御意見ございませんか。それでは、ほかには意見がないようでございます。非農地の判断に係る可否の判断を行いたいと思います。本来であれば1筆ずつ事務局から説明してもらって協議すべきですが、筆数も多いため、事前に事務局で基準に基づいて非農地通知の対象農地に該当するか否か審査が行われております。各委員におかれましては、確認をお願いします。確認いただきましたでしょうか。それでは、全部、内容についてですね、確認いただいたでしょうか。それではですね、今回、提出されました耕作放棄地が農地法第2条第1項の「農地」に該当するか否かについて、事務局で作成した案どおりですね、「農地に該当しない」の判断について賛成の方は挙手をお願いします。

(挙手の確認)

はい。全員賛成と認めます。それでは、「農地」に該当しないと判断したものについては、当農業委員会としましては非農地として判断した旨を各権利者へ通知をいたします。

3 番 一つだけ聞いてよかですか。

会 長 はい。

3 番 非農地がこれだけ多くなれば、農業委員の仕事というとは、これ、少なくなるというようなことはなかですか。それはもう。

会 長 そういうお仕事は、メインは、先ほども申しましたように、人・農地プランの関係になりますので。

3 番 耕作してあつところは、見に行かないかんけど、非農地になってしまったら、その確認ちゅうとは、どんなふうになつとですか。

事務局 利用状況調査とかであれば、非農地。この場合、非農地通知を發出して、そこで登記を変えていく。原野にしたって、そうたらもう農地ではなくなるので。

- 3 番 農地ではなくなるんでしょ。
- 事務局長 利用状況調査とか、そういうのはもう関係なく。
- 3 番 関係なくなる、はい。
- 会 長 もう結局、●●してもらったら一番分かると思いますけど。
- 3 番 ということはもう、この面積がたいがな、やっぱり広くなるっていうことでしょ？
- 会 長 そうですね。
- 3 番 はい。甲佐町、今、もう早川だけじゃ、これぐらいあるけん、また甲佐町とすれば各地区も、もうこういったところが多くなってくるわけでしょうね。
- 会 長 町としては、これ録音入ってますけど、町としては全体の面積が減った中で農地が減るから、何ていいますか、それだけ効率よく農業はできるという、分母が小さくなります。
- 3 番 ばってん、この、例えば農業委員が、例えば耕作面積が少なくなるけん、現地確認もなくなるけん、人数を減らされるっっちゃうようなことはないわけですよ。もう一回、そういったとこを何か。
- 事務局長 農業委員さんに関してはもう、規定上だいたい決まっていますので、定数というのは、おそらくしばらく変わらない。ただ、最適化推進委員さんについては、特に乙女口の委員さんたちにはお世話になってますし、してるんですけども、そこについてはもう耕作面積自体が少なくなっていくと、定数がやっぱり減っていく可能性はあります。ただ、非農地の通知につきましては利用状況調査や実際そこはもう耕作できないというようなところをして、そこで農振農用地じゃない、農振農用地だったら非農地の通知は出せない。そこを農業委員さんが確認をされて、もう完全に元に戻すことができないんですよ、というような判断を下されて初めてこういう出てくるというものですから、なかなか期間も利用状況調査が終わってから、それからの期間ということで、かなり短い期間で判断をしなければいけないということで、やっぱ毎年毎年、そんなにいっぱい面積というのはなかなか難しいのかなど。ただ、これをしていかんことには、耕作放棄地自体がもう全然減っていかない。もう山、原野化してる所を農地としてずっと守っていくということになってしまうと、またちょっとおかしな話ですので。今後もちっと少しずつでも続けていきたいなというふうには考えています。
- 1 番 ちょうど組合のほうで、その考えが、ちょっと議論があったもんですからね。
- 会 長 次の議案の関係ですか。はい。それでは、会議を進めてまいります。
- 続きまして、議案第33号「熊本地震に伴う地籍再調査事業実施区域、これは大字田口の地区の一部の農地の地目変更について（照会）」についてを議題とします。事務局から説明をお願いします。
- 事務局長 はい。それでは、28ページをお願いいたします。議案第33号「熊本地震に伴う地籍

再調査事業実施区域（大字田口地区の一部）の農地の地目変更について（照会）」、熊本地震に伴う地籍再調査事業実施区域（大字田口地区の一部）の農地の地目変更について、別紙のとおり照会があったので、意見を求めるものでございます。令和4年1月11日提出、甲佐町農業委員会会長名です。次のページをお願いいたします。甲税第1417号、令和3年11月18日、甲佐町農業委員会会長様、甲佐町長奥名克美。「熊本地震に伴う地籍再調査事業実施区域（大字田口地区の一部）の農地の地目変更について（照会）」、このことについて、別紙調書のとおり地目を変更しても支障がないかお尋ねします。以上です。

会 長 はい。ありがとうございました。それでは、30ページをお願いします。議案第33号「熊本地震に伴う地籍再調査事業実施区域（大字田口地区の一部）の農地の地目変更について（照会）」を審議したいと思います。事務局から位置の説明をお願いします。

事務局 はい。それでは御説明申し上げます。今、議長のほうからお話がありましたとおり、税務課からの照会のあった農地のリストにつきましては、30ページから32ページにお付けしております全78筆でございます。場所につきましては、33ページに調査前の登記地目、34ページに地積調査後の税務課地籍調査の判断ということで、お示しております。前のスクリーンのほうで御説明申し上げますと、これは33ページの調査前の登記地目でございます。黄色の着色してありますのが対象農地の登記地目、畑でございます。場所、すみません。こちらが県道の御船甲佐線、森川健康堂の研究所と右下、こちらが宇城鉄筋事業組合さんでございます。右端に、こちらが町道の田口学校線。今申し上げましたとおり、対象農地、着色してあるのが、こういったところで、黄色が畑、登記地目が畑。こちらがちょっと着色が見えにくいかと思えますお手元の資料で御確認いただければ、水色に着色してあります、こちらが登記地目が水田、こちらにも水田がっております。続きまして、34ページの地籍調査の結果、登記地目と相違があるということで諮問が上がってますのが、次の34ページです。こちらにグレーに着色してございます農地、登記地目が現況鉄筋団地からグリーンセンターまで新しく農道の改良、拡幅工事が行なわれてまして、登記地目に変更なされてなかったということで、グレーが畑から公衆用道路、それと、こちらに緑がございますが、こちらが登記地目が畑で、現況山林と。それと、こちらのほうが登記地目水田だったのを現況田んぼですよということで、畑。水田から畑の形態であるということで、こちらのほう、着色の色分けがしてございます。こういった中で現地の確認をさせていただいたところでございます。諮問があつてのが78筆ということで御理解いただければと思います。以上です。

会 長 今、色分けについての説明があつたところです。現地調査を行っておりますので、14番委員の本田委員から可否の判定について説明をお願いします。

14 番 はい。14番委員の本田です。先月の12月23日に会長、島津委員、平井委員、事務局と一緒に現地調査を行いました。対象地は、大字田口地域内にある農地・水路78筆で、内訳としまして田が25筆、畑49筆、用悪水路4筆となっております。照会があった農地のほとんどが調査の結果のと通りの現状で、「田」を「畑」、「畑」を「道路、山林」と地目を変更しても問題ないと思われました。一覧表の最後に記載してあります、農地のみが地目変更の必要なしと思われました。以上、報告を終わります。

会 長 はい。ありがとうございました。ただいま、14番委員の本田委員から現地調査の報告、照会に係る可否の判断について説明がありました。これより質疑に入ります。発言のある方は挙手をお願いします。はい。佐藤委員、どうぞ。

8 番 すみません、ナンバー10番から13番で、これは何ですか、用悪水路と読むとですか、この、字読むとしゃがな、要するに水路だったところが畑になるわけですか。

14 番 要するに、中山から水が流れてきよったんだけど、今はその水が流れてこないんです。

8 番 てことは、もう畑としての形になって。

14 番 全部畑です。

8 番 もう、普通、水路というなら、なんかですね。その畑にあったらならんごた感じのする。

14 番 だから中山からね、きれいにもう昔は水が流れてきよったんですよ。その下に最終的には堤があったけど、今、堤が、少し水が溜まってます。だからもう水がそれから先も下のほうの堤からどンドン水が流れないという現状になってます。

事務局長 今、現況としてはもう水路自体がもうないような状態。

8 番 じゃあ、この水路という、この、結局は個人の名義だったというわけですか。流れるところに。

14 番 流れるところがね。だから、何て言うかな。昔、雨水が流れてきよった感じの場所なんです。

8 番 自然の水路んごたかたち。普通、水路という、こん個人の名義になつとですか。

事務局長 個人のところもあります。

14 番 ややこしいんです。

8 番 もう一つ、こん雑種地というのは、どういう。18番とかなんかに。

14 番 18番？

8 番 78番か。雑種地って書いてあるところのほうに、雑種地について、ちょっと説明ば。

会 長 はい。

事務局 ちょうど、前のスクリーンのほうでお示ししておりますけども、地籍調査に行かれたときにですね、ここの農地、写真の農地、これが現地行ったんですが、雑種地じゃないかと。資材置場とか駐車場とか、畑じゃないんじゃないですかという判断を

しましたけど、どうでしょうという。

14 番 ちょうどね、黄色のところの、この地図の真ん中へんのここなんですよ。ここ。入口のところに砂利入れて、車庫みたいになってるんです。ここ、ここ。

会 長 ここって、地図出していかんとあれですけど。

14 番 地図見らんと分かんと思います。写真写したもん。そこ、そこ、そこ。こっち、こっち、こっち。これ。この下。

8 番 雑種地と書いてある、この雑種地の意味があんま分かんだったもんだけん、要するに、なんか分かんという土地ということですか。

事務局長 雑種地、雑種自体は、雑種というのは、宅地ではない、農地でもない、一番多いのはもう駐車場とか資材置場とか、要は造成して下をもう固めてあって、もう農地としても基本的には復元できないようなところが雑種地に。

1 番 ハッキリ言うと無断転用してあるということですね。

事務局長 そうです、そうです。

事務局長 要は、おっしゃるとおり無断転用だった案件の。

1 番 一つ確認ですけど、本田委員があった農地は農地のままで転用する必要ないけん、だから田んぼだったけど、今、現況畑だけど、転用する必要ないとか何とか言われたのは確かですか。一番最後。

事務局 農地のままなら、別に問題ない。農地がそのままの。

1 番 他の名義ばってん、畑ん状況なつとるばってん、農地は農地だけんそのままよかってことですか。

事務局長 よかです。農地法とは関係ないので。

1 番 農地法とはね。ただ、転用はせんでもよか。

事務局長 転用はせんでもいい。ただ、地目変更は基本的には、今回の場合は地籍調査だけん町のほうで地目変更しますので、で、転用はもうもちろん宅地とか雑種地に変えるときのみですので必要ない。

1 番 町のほうでしたとかいな。

事務局長 地籍調査ですね。

1 番 前、地籍調査んときに、田んぼ畑にでけんだったて思うけどな、町の地籍調査したときに。

事務局長 それは確か、できますよね。

1 番 いや、してなか。俺、田んぼも畑も。

事務局長 現況は。

1 番 でけんだった。だいたい今でも水田確認くつとたい。

事務局長 そうですか。

1 番 現況畑ばってん。

事務局長 現況地目で登記するですね。

1 番 でけんて言わした。

事務局長 はい。どうぞ、どうぞ。

推進委員 調査のときの話で、今、地目の照会があつておりますが、これは農地法で転用が必要だからということで照会があつとつと思います。これ自体はですね。地目は地籍調査時点では現況の地目、法務局の登記官が視ると、同じような感じで確認しますので現況地目です。

事務局長 現況地目ですね。

推進委員 はい。だから田んぼだったら田んぼ、畑だったら畑で言うはずですよ。だったと思います。

事務局長 あくまでも現況地目ということで。だけん、今回のその経緯といいますのが、今回、熊本地震で全体的に地殻変動でずれてると、で、そこを熊本、もう全体を一定のその率でパラメーターというんですけど、こういうふうに動いているということで、ずっと全部を同じようなかたちで座標をずらしていくというようなのをやったけれども、それが一応公簿上の範囲に入っていないというところで、まずは国土地理院でされて、その内側を今度国交省でされて、それでもできなかった部分、断層のそばの部分、甲佐で該当するのがこの田口のところについて再調査が必要になったという経緯で、今回出てきているところですが、これの概要になります。

1 番 だいぶずれとつたという事は聞いています。ただ町でこういう職権でもう転用できるということであれば、こういう、賛成なんですけど。

14 番 だから、もともと始まったのは、今、田原の道を改修してますよね？あのときに測量をやったらずれとつたということから始まったんですね、地震のあとに。

1 番 じゃあもう、その農地じゃなかったってなったら、しとつたほうが。

事務局長 そうですね。

1 番 個人で転用すつとも大変なもんだけん。それででくんならば、そこ。

会長 はい。

推進委員 私はこの地元の人間ですけども、その地目変更とか何とかは誰がやったわけですか。雑種地とか、そういうふうなかたちを持ち主が持ちあげたんですか、それとも役場でこう、されたんですか。

事務局長 ここの確認地目ですか？

推進委員 はい、その。

事務局長 これはですね、役場のほうで業務委託をして、すべて立会いのもとで全部地目を確認してるはずですよ。

推進委員 いや、だけどですね、私も立会って、地籍の調査のときは私とこも何カ所かあったもんで、出たんですけど、全然狂ってない昔の杭と一緒にのところでみんな打ってるも

んで、どこがずれてるかっていうのが。

事務局長 なるほど、なるほど。

推進委員 昔の杭と同じところに打っていただけですので。

1 番 ずれたところに。

事務局長 このやり方がどぎゃんやり方でしてあつとかまではちょっと私じゃ分からんけどです
すね。

推進委員 だから、何でこんなこと、動いてるっていう話だったんですけども、元の杭と一緒
のところに打って行くだけだったんです。

事務局長 だけん、杭の位置自体がだけん、もともと、その元のところに打ったところ自体が
多分、下の全体的にずれとるけんです、同じところに境界で杭を打っても座標自
体が前と比べたら全部ずれてると思います。おそらくです。全体的にその地殻変
動で、なんか妙なふうに、なんかちょっと動いてはおつとですよ。

1 番 なんかずれが50センチあったとかなんか。

事務局長 大きかところはですね。

1 番 だけん、そがしこなつと、全体が50センチずれとったなんかするけん、座標のポイ
ントはずれてくつとたいな、全部。その調査ばしよって聞いとつたつですけどね、
座標ばな。

事務局長 全体的に多分ずれてるんです。

1 番 座標確認ばせにゃんけんて。

事務局長 はい。

14 番 私、位置ずれて聞いてますよ。全体が、すば一んで中山のほうさんね、動いとるて。
要するに、あそこの乙女台地自体がね、中山側のほうさん、動いとるて感じ。その
ときに、調査やったのは、衛星使ってから全部ね、調査やりおつたんですよ。各地
区に行って。あとから最終的には畑終わって田んぼのほうに、やってるわけです。
活断層が通ってるのが、飛行場があるでしょ、和田内のラジコン飛行場が、ちょっ
と吉田から上さんきたとこ。あれからずっと割れてから、割れてから和田内のね、
西側を通って割れて上のほうに割れとるですよ。全部が。特に余計ずれとるのが、
田原側のほう。そこに活断層が通ってる。

1 番 あそこ縦に通ってる。田口橋ん方さんと府領さんと。

14 番 そうそう、だけん、あの堤防にね、和田内の堤防からず一つと割れとつたんですよ。

会 長 いろいろ、意見があちこち出てますけど、本件からいろいろ説明がありまして、ほ
かには何か御意見ございませんか。それでは、ほかには御意見もないようござい
ますので、採決を行いたいと思います。本田委員の報告のとおり回答することに賛
成の方は挙手をお願いします。

(挙手の確認)

はい。全員賛成と認めます。それでは、議案第33号につきまして、当農業委員会としましては報告のとおり回答をいたします。

ここです、今、3時10分ぐらいですかね、5分。15分までちょっと休憩を取ります。15分まで10分間休憩取ります。

(再開)

はい。それでは、会議を再開いたします。

続きまして、議案第34号「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想の変更について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

事務局長 はい。それでは、35ページをお願いいたします。議案第34号「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想の変更について」、農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想の変更について別紙のとおり諮問があったので、意見を求めるものでございます。令和4年1月11日提出、甲佐町農業委員会会長名です。次の36ページをお願いします。甲農第1477号、令和3年12月20日、甲佐町農業委員会会長岡本篤幸様、甲佐町長奥名克美。「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想の変更について（諮問）」。このことについて、農業経営基盤強化促進法施行規則第2条の規定に基づき別紙のとおり諮問します。以上で終わります。

会 長 はい。それでは、次の37ページをお願いします。「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想（案）」について事務局から説明をお願いします。

事務局 はい。それでは、御説明します。今回の基本構想の変更につきましては、県で定めている農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針が本年度見直されましたので、これに伴って、原則市町村も県も基本方針と連動して見直しを行うというふうになっていましたので、今回の諮問となりました。それでは、まず中身に入りたいと思います。こちらの資料につきまして、平成30年の3月に作成した資料に見え消しで修正した資料となりまして、以前との比較ができるようにしております。修正箇所等が多く、誤字等の訂正等につきましては説明を省略させていただき、重要なところだけ抜粋して説明しますが、よろしく願いいたします。

まず、39ページをお願いいたします。最初の第1、農業経営基盤の強化に関する目標の第3項につきまして、7行目ぐらいですけれども、年間農業所得をですね、今までは、だいたい一人当たり300万としておりましたけれども、こちらを、県等が、県がですね、上げられたので甲佐町のほうでも様々な計算を行いまして、360万に増額しております。

続きまして、主なページといいますと、42ページです。の6項、新たに農業経営を営もうとする青年等の育成・確保に関する目標ということで、まず（1）の新規就農の現状とありますけれども、「甲佐町の」の次、「平成27年」となっておりますけれども、これを最新の「令和2年」としております。次に（2）番の新たに農業経

営を営もうとする青年等の確保に関する目標としまして、これの（１）の２番ですね。「農業次世代人材投資資金」というのを消して、単純に「補助制度」というふうに変更をしております。次に、アの確保・育成すべき人数の目標ということで、こちらの３行目ですけれども、３、雇用就農「324人」と国のほうが設定されておりましたけれども、こちら「600人」と変更となっております。続きまして、イの新たに農業経営を営もうとする青年等の労働時間・農業所得に関する数値目標ということで、こちらの３行目のほうをですけれども、年間農業所得「3に示す効率的かつ安定的な農業経営の目標の8割程度の農業所得、すなわち」を削除しまして、また、主たる従事者一人あたりの年間農業所得を「200万」から「250万」に変更しております。続きまして、43ページです。第2の農業経営の規模、生産方式、経営管理の方法、農業従事の態様等に関する営農の類型ごとの効率的かつ安定的な農業経営の指標ということで、まず「（1）類型設定の基準」を消して、「（1）個別経営体」としてあります。そのあとの①の下「ア、イ、ウ、エ」は不要ということで、そのあとのページに載っておりますので不要ということで、こちら4行は削除しております。続きまして、②の法人経営につきましても「ア、イ、ウ」、この3行を不要ということで削除しております。また、（2）の協業経営体の③協業経営以下4行につきましても不要ということで削除を行っております。

続きまして、44ページをお願いいたします。こちらが家族経営の類型になるんですけれども、一番下にですね、下の表にタバコ、水稻、スイートコーンの類型があると思いますけれども、こちら、今、タバコを甲佐町で耕作、作付される方がいらっしゃらなくなりましたので、こちらの行につきましても一式削除ということになっております。

あとは50、飛んで51ページからですけれども、こちらからがですね、農地利用集積円滑化団体がもうなくなりましたので、だいたいこれの削除となりますけれども、51ページの（3）番、開発を伴う場合の措置ということで、①の3行目ですかね、「農地利用集積円滑化団体」とありますけれども、円滑化団体関係の文言を削除しております。

次に、52ページの項ですけれども、（5）の要請及び申出で④番が円滑化団体となりますので、これ一式削除しております。それと、あと（6）農用地利用集積計画の作成というところの、②番の2行目の「又は」から「農地利用集積円滑化団体」を削除しております。

続きましてが、54ページの第2項、「農地利用集積円滑化事業の実施の促進に関する事項」、こちらを、もうこの項自体を全部削除。と、こちらから項が1個ずつ繰り上がっていったることになります。

次が56ページ、56です。の5項、「5」を消して「4」項ということですね。農業経

営の改善を図るために必要な農業従事者の養成及び確保の促進に関する事項ということで、こちらの4行目の「農地利用集積円滑化団体の保有農地を利用した実践的研修」というところを削除しております。

あと57ページです。(1)の新たに農業経営を営もうとする青年等の確保に向けた取り組みということで、イの中期的な取り組みの中の5行目です。「小学生の農業体験としては上益城地域農業振興協議会の農業体験学習助成事業を活用し、大豆の清算に係る体験活動を実施している」とありますけども、こちらがなくなっておりますので、削除ということになっております。次に(2)の新たに農業経営を営もうとする青年等の定着に向けた取り組みということで、エのところですね、青年等就農計画作成の促進及び指導と農業経営改善計画作成への誘導ということで、この2行目に「農業次世代人材投資事業や青年等就農資金、経営体育成支援事業等の」という文言がありますけども、こちらを削除ですね。これは削除して、個別に書く必要はないということで、そのあとの国の支援策でいだろうということで削除をしています。

次は第5章、58ページの、58ページ、59ページ、60ページになりますけども、第5章、農地利用集積円滑化事業に関する事項ということで、こちらが全部削除となっております。一応、今まで、まだ修正箇所の説明は以上です。昨年の12月にですね、町のほうでこの見直しについて、県のヒアリングを受けておまして、県からも複数の指摘はありましたけども、だいたい修正は行いまして、問題ないという回答をもらっております。説明は以上になります。

会長 はい。ただいま、事務局から「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想の変更について」の説明が、詳しく説明がありました。内容についてはですね、説明者が説明しましたようなかたちに県との打ち合わせ等によってですね、なされていると思います。これより質疑に入ります。この件に関して発言のある方は挙手願います。

14 番 いいですか。

会長 はい、どうぞ。

14 番 小学生の農業体験としてって、白旗小学校もあったよね。田植えとか。

1 番 田植えとなんか。

14 番 ね。乙女小学校とかなんかもある。もち米植えたりとかね。

7 番 はい。

14 番 しよるけど、今後は中学生以上になるってこと？57ページのイのところ。

7 番 あれは、農協の青壮年部のほうでしてる。

14 番 あれ農協で。

7 番 J A の。

- 14 番 前は地区じゃなかった。
会 長 違う、あれは確か農協。
14 番 農協に変わった。
7 番 J Aの青壮年部がしとる。
会 長 農協の青年が出て行きよっでしょ。
7 番 それと、一部、糸田の法人、会長に応援もらいながら、苗作りとか指導してもらって、今やってるんですよ。学校教育課で、学習体験みたいな感じで。
14 番 そうです。
会 長 これとは直接関係ない。
14 番 関係ない。
事務局長 前は郡の協議会のほうで小学生対象でありよった、今はもう、それがなくなったと言うことです。
会 長 ほかに何か御意見ございませんか。何か、御意見ございませんね。それでは、ほかには質問もないようでございますので、原案のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。
(挙手の確認)
はい。全員賛成と認めます。それでは、町からの諮問について、原案のとおり「異議なし」と回答をいたします。
本日、予定をいたしました議案については、以上で終了をいたします。
事務局長 はい、ありがとうございます。それでは、長時間にわたりお疲れさまでした。これで、第10回定例農業委員会総会を閉会いたします。どうもお疲れさまでした。

本議事録が真正であることを署名する。

署名委員 議 長

1 番

2 番